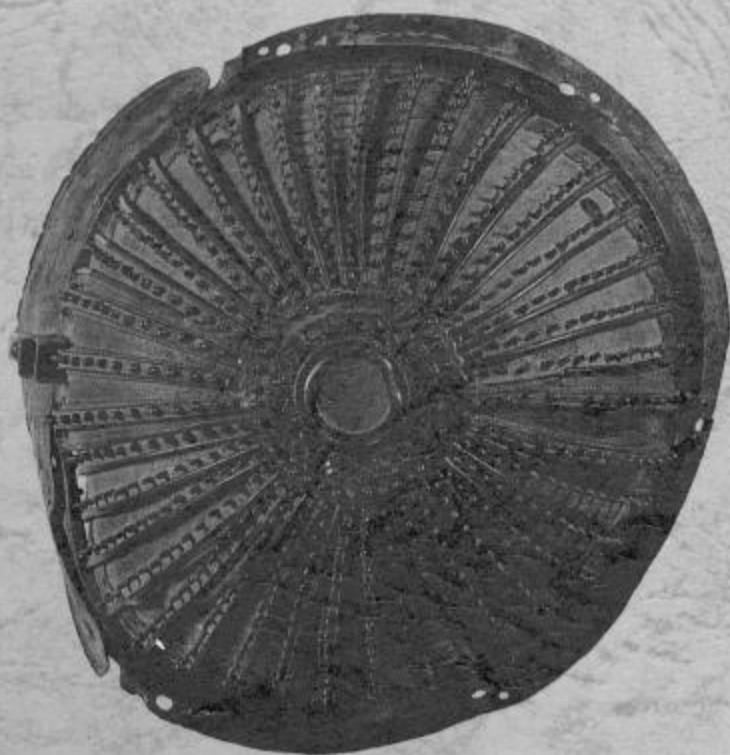


宇都宮の

金属工芸



宇都宮市教育委員会

表紙

重要美術品

さんじゅうはち けん ほしかぶと
『三十八間星兜』

(昭和9年9月1日認定)

宇都宮市馬場通り1丁目1番1号

宇都宮二荒山神社 所 蔵

文化財シリーズ第12号

宇都宮の

金属工芸

屋外の物件を主として

平成5年

宇都宮市教育委員会

序 文

文化財シリーズ第12号として発刊いたしますのは、身近な社寺堂宇で見かける鉄や青銅製など工芸品を扱った「宇都宮の金属工芸」です。

鉄や青銅などの金属の工芸品は弥生時代の初期頃日本に上陸し、急速に全国に広まっていったといわれています。宇都宮市近辺では古墳時代の前期である4世紀ころの古墳から鉄器や青銅器が出土しており、当時すでに宇都宮の地にもこれらの金属工芸品があったことがわかっています。

鉄や青銅が生活の中に入る前は、主に木や石を用いていました。木や石に比べて金属は固くかつ長持ちし、今まで得られなかった鋭利な刃物が作れるなど、大変に多くの長所を挙げることができます。しかし、青銅や鉄を作ったり加工するためには高度な技術を必要としたために、特定の人々が少量の生産をつかさどっていたと考えられています。それ故に金属の製品には、単に便利であるという面のみでなく、権力や宗教の象徴のような面も多くあったようです。当時の首長の墓である古墳に副葬品として鏡や武具、農具などの金属の工芸品が埋められているのは、このような理由であったと考えられています。

後に技術が発達し、金属の製品が私たちの暮らしの中に普及しても、私たちは金属の製品に何らかの畏敬の念を持ち続けたのではないのでしょうか。それらが、信仰の面に現れ、奉納という形で現在の私たちに伝えられているのです。

今回の報告書では、どなたでも比較的簡単に見学できるものを中心にまとめてみました。皆様方の身近な所にも多くの金属工芸品がありますので、地元を見直す契機にし、郷土を愛する心を養っていただけますよう、心から願う次第です。

最後になりましたが、今回の調査及び本冊子の刊行にあたり御協力いただきました宇都宮市文化財調査員の方々、また調査の際にお世話になりました多くの方々に、心から感謝の意を表します。

平成5年3月

宇都宮市教育委員会

教育長 藤田昌平

目 次

序 文

まえがき

I 『宇都宮の金属工芸』の調査について	1
II 『宇都宮の金属工芸』	
所在分布図	3
1 国指定重要文化財	
(1) 鉄塔婆	大通り5丁目 8
2 国認定重要美術品	
(1) 三十八間星兜	馬場通り1丁目 9
(2) 鉄製狛犬	馬場通り1丁目 10
3 栃木県指定文化財	
(1) 兜	東峰町 11
(2) 鉄錆地六十間筋兜	東峰町 12
(3) 銅鐘	大谷町 13
4 宇都宮市指定文化財	
(1) 銅造宝篋印塔	上桑島町 14
(2) 銅鐘	竹下町 15
(3) 二荒山神社本殿勾欄擬宝朱	馬場通り1丁目 16
(4) 篠井神祠	篠井町 17
(5) 銅鐘（およりの鐘）	大通り4丁目 18
(6) 銅鐘	塙田1丁目 19
(7) 銅鐘	大通り5丁目 20
(8) 銅灯笼	大谷町 21

5 未指定文化財	
(1) 鰐口	22
(2) 鈴	32
(3) 宝剣	34
(4) 鉦	36
(5) 竜辰	38
(6) 半鐘	39
(7) 鳥居	40
(8) 供養塔	40
(9) 手水鉢	41
(10) 絵馬	42
(11) 露磐宝珠	42
(12) 天水槽	43
(13) 金灯笼	43
6 消防関係半鐘	44

III 参考資料

1 金属工芸品所在一覧	65
(1) 国指定重要文化財	65
(2) 国認定重要美術品	65
(3) 栃木県指定文化財	65
(4) 宇都宮市指定文化財	65
(5) 未指定文化財	65
(6) 消防関係半鐘	67
2 宇都宮藩御用鋳物師戸室氏について	70
(1) 『鋳物師戸室氏一門とその遺作について』から(冨 祐次氏著)	70
(2) 『金工品調査雑考』から(渡辺龍瑞氏著)	72
(3) 『天明鋳物資料集 天明鋳工作品各国別(乾坤)』から(佐野青年会議所)	74
(4) 北口英雄栃木県立美術館副館長の調査から	78

ま え が き

本冊子は、昭和63年に宇都宮市教育委員会が、市文化財保護審議委員会の答申を受け、市文化財調査員活動の一環として実施した「金属工芸品調査」の結果をもとにまとめたものです。

同調査は市内全域を対象として実施され、国、県、市で指定されているものを除いて156件の報告がありました。本冊子はこれに事務局（市教委文化課）の職員が調査したものも加え、128件に整理して掲載いたしました。

本冊子は、多くの方々に身近な金属工芸品を紹介することを第一の目的に編集いたしました。ですから専門的な記述は極力避けるようにいたしました。

なお、この「金属工芸品調査」は以下の組織で調査をしましたが、現地調査において多くの方々の御協力を仰ぎました。特に、調査票の分類・整理から執筆・編集は文化財研究展示室の高野左千流囑託員が担当いたしました。また、巻末の戸室鋳物師関係の資料につきましては、栃木県立美術館の北口英雄副館長、佐野市郷土博物館、佐野市青年会議所、下野史談会、渡辺龍瑞氏ら多くの方々の御協力を賜りました。心から御礼を申し上げます。

●宇都宮市文化財保護審議委員会委員

雨宮 義人(委員長)	岩崎 良能(副委員長)	大金 宣亮(委員)
小林 幹夫(委員)	戸田 博亘(委員)	富 祐次(委員)
橋本 澄朗(委員)	塙 静夫(委員)	森谷 憲(委員)
渡辺 安友(委員)	柏村 祐司(委員)	

●宇都宮市文化財調査員【()内は調査員の担当地区】

河合 芳幸(一条)	塚田 宗雄(陽北)	酒井 光一(旭)
繪面 昭男(陽南→姿川)	石川 秀男(陽西)	高藤 常松(星が丘)
松本文一郎(陽東)	小林 哲夫(泉が丘)	桑川 弘明(宮の原)
菊池 正仁(平石)	坂本 恒一郎(清原)	石川 純雄(横川)
坂寄 悦男(瑞穂野)	平塚 良雄(豊郷)	小塚 博(国本)
高山 伝治(城山)	福田 操(富屋)	阿久津 義正(篠井)
松本 笑悦(姿川)	小島 豪市郎(雀宮)	安野 弥一郎(陽南)
清水 昭(陽東)		

●宇都宮市教育委員会文化課職員

安達 光政(文化課長)	○定岡 明義(文化財保護係長)	○手塚 英男(同係指導主事)
梁木 誠(同係指導主事)	○小松 俊雄(同係指導主事)	大塚 雅之(同係指導主事)
神野 安伸(同係指導主事)	今平 利幸(同係指導主事)	◎高野 左千流(囑託)
小林 祐子(囑託)	間彦 克子(囑託)	○印=企画編集(◎印=主任)

I 『宇都宮の金属工芸』の調査について

本冊子は、宇都宮市文化財調査員活動の一環として実施した「昭和63年度課題別一斉調査」のテーマ『宇都宮の金属工芸品』及び平成2年度に追加調査を実施した『金属工芸品追加調査(半鐘調査)』の結果をまとめたものです。

1 目的

金属工芸品は、身近な神社などに数多く伝承されてきたものですが、近年ではこれを取り巻く環境は決して良いものではありません。そこでこれらの実情を把握し、必要に応じその保全を図ると共に、多くの方々に地元を見直し、郷土愛を育む契機にさせていただきたいと考え、比較的容易に見学できる物件を主にして調査を行いました。

2 調査対象

『金属工芸』の調査対象は以下の基準を設けて行いました。

- ・神社、寺院、堂宇、個人宅、道端などにあるもので、容易に見学できるもの。(屋外中心)
- ・第二次世界大戦以前に製作、奉納されたもの。

なお以下のものは、今回の調査の対象からはずさせていただきました。

- ・刀剣、槍など個人で所有している工芸品で、美術品的傾向の強いもの。
- ・仏像等の信仰の対象物。
- ・破損が甚だしいもの。

3 調査方法

(1) 調査

調査は直接現地に行って聞き取り調査を中心に行いました。なおそれと並行して写真撮影やスケッチ、計測

昭和63年度調査票(金属工芸品)	
No. <input type="text"/>	
調査日	昭和 年 月 日()
調査者	<input type="text"/>
調査場所	宇都宮市 町 丁目 番 号
所有者 および 管理者	住所 宇都宮市 氏名 (社名等も) 電話()
工芸品の 種類	
保存状況	ア、良好 イ、普通 ウ、不良 エ、破損 (特記事項)
工芸品にまつわる言い伝え・いわれなど	
銘文 その他	
調査地略図	工芸品の略図・写真等(寸法および部分名称等)
<input type="text"/>	<input type="text"/>

『宇都宮の金属工芸品』調査票

なども行いました。

(2) まとめ

「金属工芸品調査票」に調査結果を記録し、写真やスケッチを添付しました。

(3) 調査地区

調査地区は宇都宮市全域で行いましたが、各調査員は原則として、担当地区内の調査を行いました。

4 調査結果

調査員からは156件を超える調査報告書が提出されました。それらの内容については下の表のとおりです。この報告書に事務局の調査を加えて本冊子にまとめました。なお、冊子の内容は、金属工芸品の分類ごとにまとめ、その記述はできるだけ分かりやすいように努めました。法量は努めて計測いたしましたが、計測が困難な場合は省略させていただきました。また、高所の場合は計測がやや不明確なものもあります。

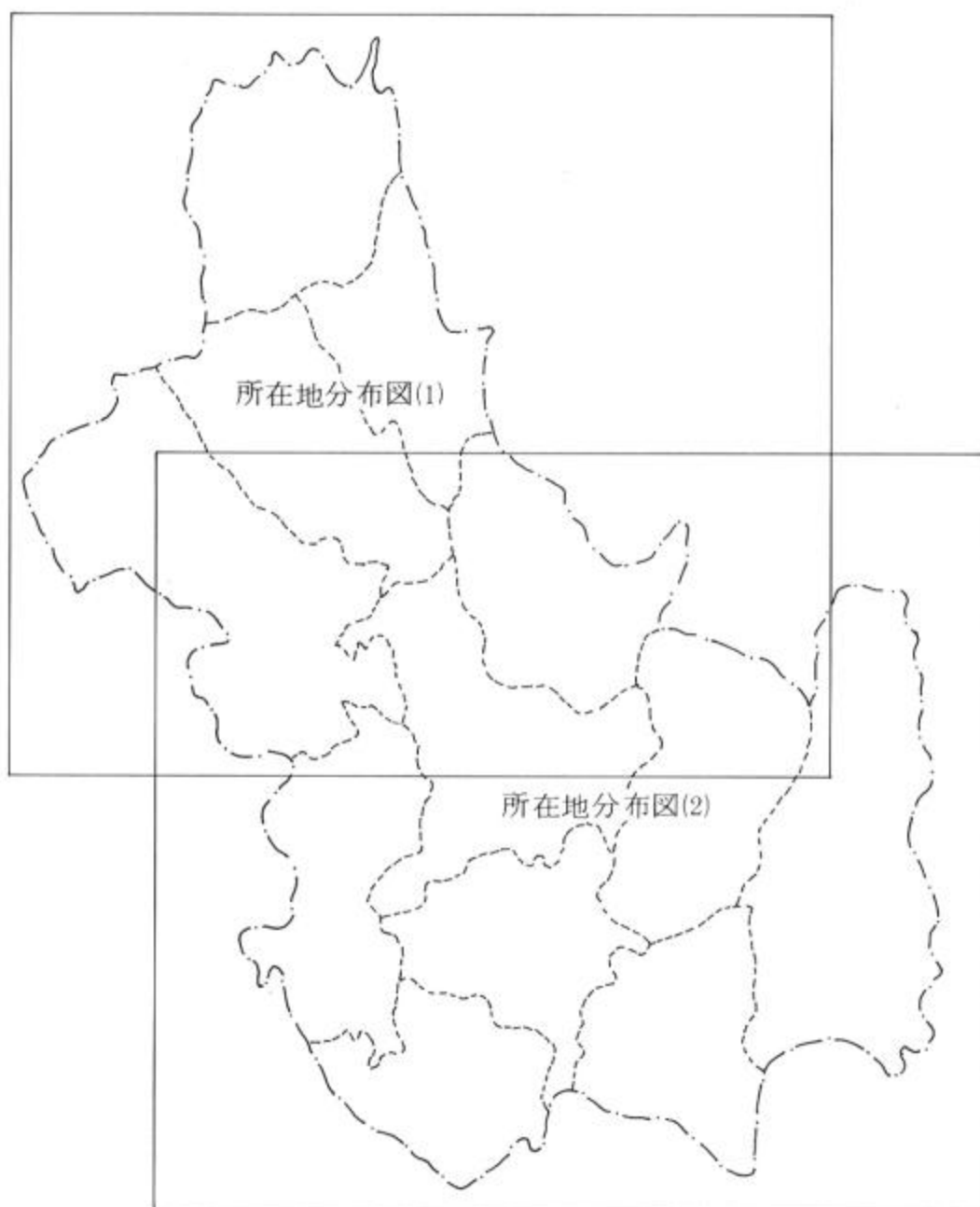
記載に関しましては、金属工芸品に銘文あった場合は、できるだけ記載するようにいたしました。また、所在地の略図を載せておきましたので、見学の目安にしてください。個人の所有や寺院等の場合、できるだけ見学前に許可を受けるようにしてください。

種類	件数		種類	件数		種類	件数	
	調査	掲載		調査	掲載		調査	掲載
鰐口	25	22	梵鐘	2	0	露盤宝珠	1	1
鈴	5	5	半鐘	2	2	絵馬	2	1
宝剣	4	4	烏居	2	1	燈籠	1	1
鉦	6	5	彫像	7	0	天水桶	5	1
香炉	2	0	手水鉢	1	1	消防半鐘	87	80
龍辰	3	3	供養塔	1	1	小計	97	85
小計	44	38	小計	15	6	総計	156	128

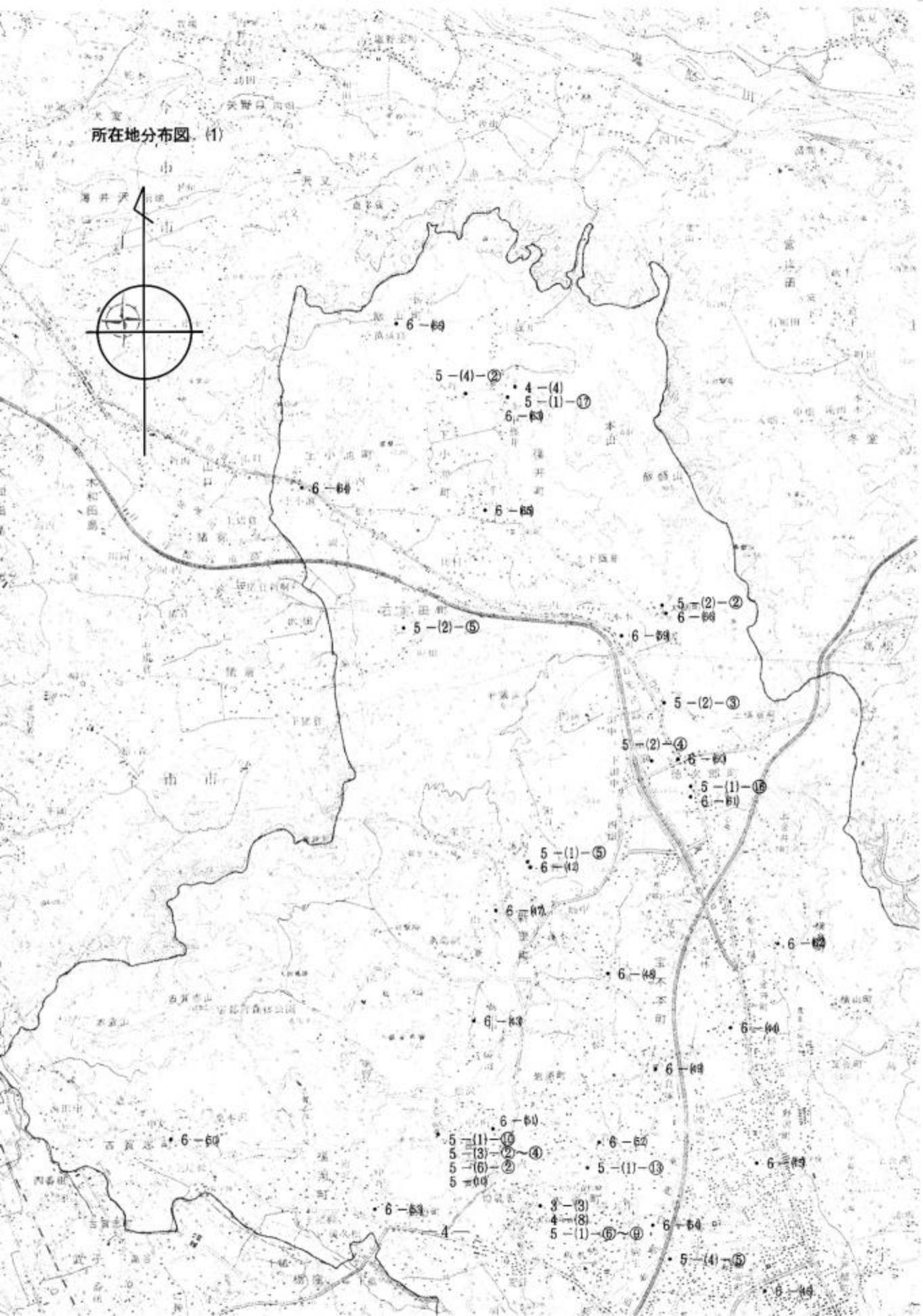
『宇都宮の金属工芸品』調査集計表

II 『宇都宮の金属工芸』

全 体 図



所在地分布图 (1)



物件の所在を示す数字は本文の項目番号と同じです。これは目次Ⅱ「宇都宮の金属工芸」の項目番号と同じになります。なお、Ⅲ参考資料との照合では、「(1)国指定重要文化財～(6)消防関係半鐘」までの大項目はそれぞれ()を外し「1……」～「6……」と書き換えて表示してあります。

